

血液細胞形態判読の極意

私がこの世界に足を踏み入れた当時、検査技師が個々の技量を発揮する場面はまだまだ数多くありました。技師間の技量差は明確に存在し、誰が出したデータかによって結果の信頼性は異なっていました。

その後、臨床検査は機械化や試薬のキット化が進み、検査技師が個々の技量を発揮できる場面は徐々に減少しました。現在では、そのような場面はほとんどなくなってきていますが、血液細胞形態検査は、いまだに個人の技術や能力に依存する部分が大きい検査分野といえるでしょう。

血液細胞形態検査には、現在でもより高い技能や深い知識が求められます。そのニーズに応えるため、本特集を企画しました。充実した内容を熟読いただき、血液形態検査に関して、読者の皆さまのレベルアップをはかっていただきたいと願うものです。 (佐藤 尚武)